

リビングプレス

Living Press



ジメジメ結露を遠ざけて冬を快適に乗り切る

暖房が欠かせなくなるこれからの季節、ようやく部屋が暖かくなったとほっとするもつかの間、窓に目をやれば水がポタポタとしたり落ちて…なんて光景、思い当たる人も多いのではないのでしょうか。放っておくと、カビやダニの発生になるこの「結露」の発生する仕組みと、予防・対策を知り、快適に冬を乗り切りましょう。

Point
1

原因は室内と室外の寒暖差、 室内の湿度の高さ

外気温がどんどん低下するこれからは、結露が発生しやすい季節。その理由は室内と室外の寒暖差と、空気中に含まれる水分量との関係にあります。気温が低下すると空気中に含まれる水分量も低下しますが、窓をしめきった状態で暖房器具をつけることで、暖かい空気が水分を含みきれなくなり、窓ガラスや壁から伝わる外気に冷やされて水滴となって現れるのが結露です。結露は窓や壁だけでなく、部屋との寒暖差が大きいフローゼットや押し入れ、水分量が多いトイレや浴室などでも起こるので注意が必要。結露を放っておくと、湿気を含んだ窓枠や壁紙が剥がれたりシミになったりするほか、カビが発生しアレルギーや肺炎の原因に。さらに、カビをエサとするダニも発生してしまいます。エアコンなどの暖房器具の設定温度を上げすぎないこと、余計な水蒸気を発生させないことが肝心です。

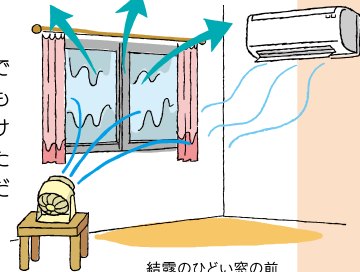


① 結露を放置したことが原因による窓枠や壁の汚損・破損の補修については入居者様の費用負担となります。

Point
2

余計な水分をためこまない ひと手間を生活習慣に

結露対策の基本は、室温に注意を配りこまめな換気を行うこと、結露が発生したら布や専用の結露取りワイパーなどでぬぐっておくことです。毎日とすると実践するのはなかなか大変ですが、ひと手間を生活に取り入れるだけで、結果的に結露が発生しにくい環境を手に入れることができます。例えば、大量の水蒸気を発生させやすい調理中、入浴中・後、洗濯物の室内干しの際には、換気扇を回したり、窓を開けて空気の流れを促したりするといいでしょ。また、人は、普通に生活しているだけでも体から多くの水分を蒸散させています。とりわけ就寝時にはコップ1杯分の汗をかくといわれるため、就寝前の5分間だけでも寝室の湿気を含んだ空気を外に逃がしておく効果的です。



結露のひどい窓の前にサーキュレーターを設置することで、窓付近の空気だけが冷やされるのを防ぎ、部屋全体の空気が循環。暖房効率も高まる。

CHECK

- 生活行動に応じて換気する（調理中、入浴中・後、洗濯物の室内干し、就寝前）
- 押し入れやクローゼットをこまめに開ける・除湿剤を使用する
- 結露のひどい窓の前にサーキュレーターを設置する
- 窓に専用の結露防止シートや、結露給水テープを貼る

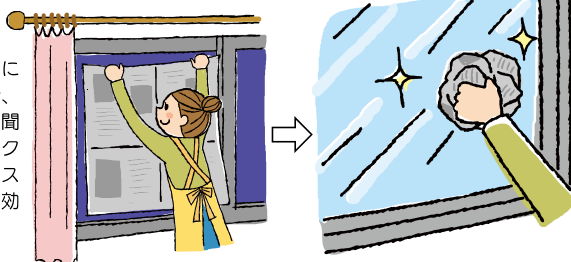
Point
3

身近なアイテムで 窓に結露を寄せ付けない

生活に身近なアイテムを用いることで、結露のお悩みがぐっと軽減。掃除もできて一石二鳥です。

新聞紙

新聞紙を夜のうちに窓に貼りつけておき、朝は湿気を含んだ新聞紙で窓掃除を。インクの成分によるワックス効果でコーティング効果も期待できます。



食器用中性洗剤

食器用の中性洗剤を10~20倍の水で薄めた液を布に染み込ませて窓ガラスを拭き、最後に乾いた布で拭いておきましょう。界面活性剤の膜によるコーティング効果で結露が発生しにくくなります。効果は1週間程度。定期的に行うのがおすすめです。

